

各関係機関団体の長
各病虫害防除員) 殿

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予察注意報第3号について

注意報 第3号

8月12日に発表した技術情報第4号のとおり、県内の中山間地や平坦地の一部において、葉いもちの発生が多くなっています。停滞型の病斑が中心ですが、九州北部地方では、8月21日頃からの気温が平年よりかなり低くなると予想されており、穂いもちの発生が懸念されます。

これから出穂期となるほ場では、基幹防除を、葉いもちの発生が多いほ場では出穂期直前と穂揃期の2回防除を徹底してください。

水稻

- 1 病虫害名 いもち病（穂いもち）
- 2 発生地域 中山間地、県北部を中心とした一部平坦地

3 注意報の根拠

- (1) 8月16日に九州北部地方の低温に関する異常天候早期警戒情報が福岡管区气象台から発表された。情報によると、8月21日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上となっており、いもち病の発生に適した気象条件となることが予想される。
- (2) 8月2半旬調査の結果、葉いもちの発生株率及び発生ほ場率は平年より高く、発生株率100%の多発ほ場も一部にみられた。

地域やほ場による差が大きく、中山間地や県北部の一部平坦地などで多発している。

発病株率	27.8%	(平年 7.7%	前年 8.5%)
発病ほ場率	55.1%	(平年 27.3%	前年 35.4%)

4 防除上注意すべき事項

- (1) これから出穂期となる元気つくしやヒノヒカリ等では、基幹防除（穂いもち対応）を徹底する。
- (2) 穂いもちは、発生後の防除が困難であるため、葉いもちの発生が多いほ場では、出穂期直前と穂揃期の2回防除を徹底する。
- (3) 降雨が続き、地上散布が困難な場合は早めに粒剤の施用を行う。
- (4) 防除にあたっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。

